



# 北海道の「生産空間」

～新しい北海道総合開発計画のお話～

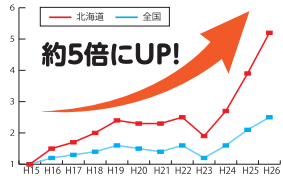
北海道の農山漁村は、食料生産や観光の場を生む「日本の宝」です

食料自給率



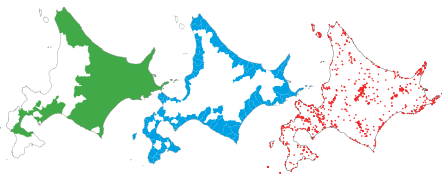
北海道は日本の食料供給基地です! ※1

訪日外国人の伸び率



田園風景は観光でも人気 訪日外国人は5倍に! ※2

農業産出 ※3 漁業生産 ※4 観光資源分布 ※5

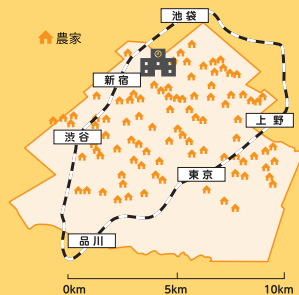


北海道は人口の少ない「地方部」が活躍する大地です!

## 豆知識! 北海道学

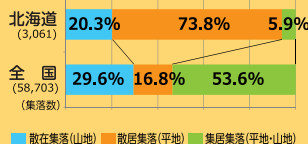
山手線の約2倍の面積の小学校校区に75戸の農家が営農。

■ 別海町の小学校区と山手線の比較 ※8



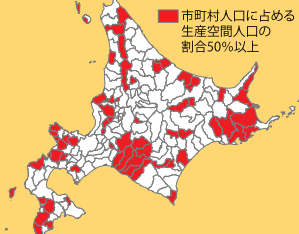
集落の74%が散居型。

■ 北海道の集落形態の特徴 ※9



生産空間に住む人口が5割を上まわる市町村が65。

※10



農業従事者の平均年齢 ※11

全国=62歳  
北海道=54歳

高規格幹線道路の整備率 ※12

全国=約8割  
北海道=約6割

■ 高規格幹線道路の整備状況



進む少子化、合計特殊出生率 ※13

全国=1.38  
北海道=1.25

## 日本の元気な未来のためには

### 北海道の農林水産・観光の場=「生産空間」の力が不可欠です

でも… 北海道の農山漁村は独特の「散居形態」で、人口定着には不利な環境…

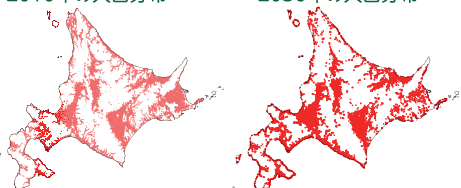
北海道の農村(上士幌町) ※6

他府県の例(富山県砺波市) ※6



2010年の人口分布

2050年の人口分布



こうした環境から、将来的にその半数が無人口化すると推計されています。 ※7

### 生産空間で農業を営む大野さん家族の生活は…

家族みんな、この地で暮らすことに悩みを抱えています。これからますます状況は厳しくなっていくでしょう。住み続けられるか心配です。



農業を継ぐことにしたのですが、農地の生産効率が悪く、大雨でやられたこともあります。将来が見通せません。



もうすぐ子どもが生まれますが、病院や保育園も車がないと行けません。子育てをここでできるのが不安…



最近、具合が悪くて…。大きなまちの病院までの通院も家族に負担をかけているし、いざというときが不安…



ちょっとした買い物も車が必要。お母さんの病院はさらに遠くて、今は運転できるけど、私もいつまでも元気とは限らないし…



「生産空間」での生活は、このような多くの悩みを抱えているのです…

『生産空間』に大きな病院やショッピングセンターがないことは仕方のないことなのかもしれませんが…



「〇〇がない」から生産空間を離れる



「〇〇がなくても」生産空間に残れるようにするために、

一体何が必要なんだろう?

うらへつづく

※1出典:農林水産省(全国/平成26年度)(北海道/平成25年度・概算値) ※2資料:日本政府観光局(全国/年度単位で集計)、北海道経済部(北海道/北海道観光入込客数調査)  
 ※3資料:農林水産省「平成18年度 生産農業所得統計」、総務省「平成22年度 国勢調査」(産業別人口)を基に北海道局作成(農業従事者1人あたり農業産出額が全国平均以上の市町村)  
 ※4資料:北海道水産林務部「平成24年度 北海道水産現勢」を基に北海道局作成(漁業生産額のある市町村) ※5資料:日本交通公社が設置した観光資源評価委員会選定「観光資源台帳」を基に北海道局作成  
 ※6写真:NTT空間情報(株) ※7出典:総務省「平成22年度 国勢調査」、国土交通省「国土数値情報(土地利用3次メッシュ)第2.3版」、「国土数値情報(将来推計人口メッシュ(国政局推計))」を基に北海道局作成  
 ※14資料:総務省「平成22年度 国勢調査」、国土交通省「国土数値情報(土地利用3次メッシュ)第2.3版」を基に北海道局作成

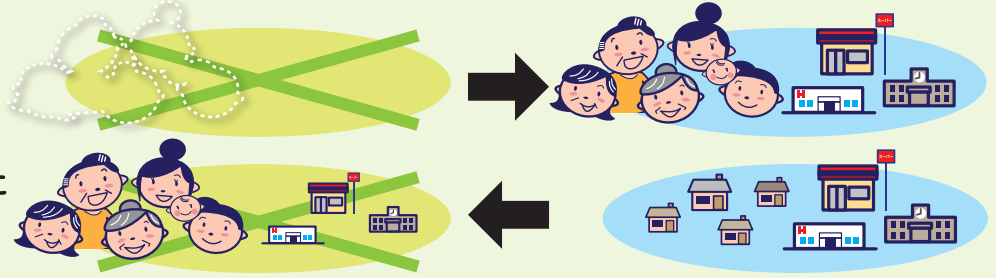
※8資料:北海道局作成  
 ※9出典:竹内慎一(北海道立総合研究機構北方建築総合研究所)「北海道の集落の実態分析による地域防災力に関する評価指標の検討」地域安全学会論文集(14),pp37-46,2011-03  
 ※10資料:総務省「平成22年度 国勢調査」、国土交通省「国土数値情報(土地利用3次メッシュ)第2.3版」を基に北海道局作成  
 ※11出典:総務省「平成22年度 国勢調査」  
 ※12資料:北海道局作成  
 ※13出典:厚生労働省「平成20年～24年人口動態保健所・市区町村別統計」

? 「○○がない」から生産空間を離れるのではなく、  
「○○がなくても」残れるようにするためには何が必要なんだろう

# 守れ! 北海道の「生産空間」

～新しい北海道総合開発計画のお話～

単純なコンパクト化では農業・漁業は  
営めず、生産空間は荒廃します



利便施設や病院を生産空間にこまめに  
増やしても経営が立ち行きません

そこで私達は



「生活サービス」を市街地に、  
「いのちの安心」を最寄りの大きなまちに、  
それぞれ頼りながら、生産空間に住んで守り続けたい

…のお手伝いをするのが、新しい計画の役割だと考えました。

## 頼り頼られる3つの層 (基礎圏域)

生産空間 (農林水産や観光等を担う地域)



地方部の市街地 (生活サービスを担う地域)



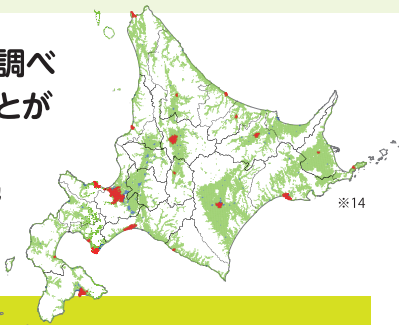
圏域中心都市 (高次の医療を担う都市)



この三層の「結び付きの度合い」を地域ごとに調べてみると、20程度のかたまり(圏域)がありました。

※主な通院先、入院先に着目した場合の地域の結び付きの例。設定条件により圏域は変わり得る。

- 生産空間
- 地方部の市街地
- 圏域中心都市
- 基礎圏域境界



新しい計画では

各圏域の強み・弱みを調べ、

①各層の強みの充実 ②各層間の結び付きの強化 によって  
「生産空間に住み続けられる環境づくり」を目指します。

## 取り組み事例



IC



近くのまちの保育園や診療所までの道がきちんと除雪されて、冬でも安心して車の運転ができるようになりました。

お母さんの通院の送迎がバス停まででよくなりました。時間に余裕ができて、最近できた農産品加工場で働けるようになりました。

家の場所は変えられないけど、まちとのつながりが良くなったので、家族みんな前より安心して暮らせそうです。



生産空間

デマンドバス

大きい区画に

農産品加工場

※人口低密度地域における交通体系のあり方についても検討します。

整備前の農地



ドクターヘリ

※冬のドクターヘリのヘリポートまでのアクセス時間を夏と同程度になるように整備します。

農地の生産効率が上がり、洪水対策のおかげで安心になりました。これで農業を続けていけそうです。



圏域中心都市



IC 高速道路等



高速バス

大きなまちの病院までバスで通えるようになりました。いざというときも冬でもドクターヘリがあるので安心です。



水産加工場

